

ロックフェラー財団「100のレジリエント・シティ」
アジェンダセッティング・ワークショップの開催結果の概要について

1 開催日時

平成29年2月8日（水） 午前 9時30分～午後 4時30分
第1部 式典 午前 9時30分～ 10時45分
第2部 ワークショップ 午前11時 ～午後 4時30分

2 場所

国立京都国際会館

3 参加者数（実績）

第1部 式典 148名（団体，企業等105名，京都市職員30名，
プラットフォームパートナー・富山市等 13名）
第2部 ワークショップ 95名（団体，企業等61名，京都市職員21名，
プラットフォームパートナー・富山市等 13名）
※概ね10名ずつのグループに分かれてのグループディスカッション

4 第2部 ワークショップにおける主な意見等

ワークショップの前提として、「京都市」＝「京都市役所」ではなく，京都市に住み，働き，遊ぶ人々，組織，場所すべて含めて「京都市」としました。

(1) ワークショップ1 「レジリエンスとは何かを理解する」

参加者それぞれが属する組織，地域社会や京都のまちで，これまでに起こった（経験した）困難な状況と，そこからどのようにして立ち上がったのかについて意見交換。

→ いろいろな困難に対して，地域の力によって克服した，という意見が多くみられました。



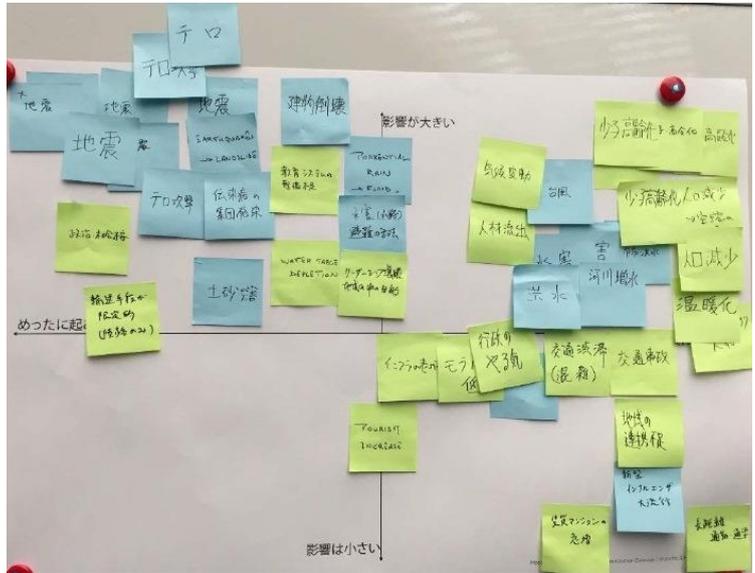
(グループによる発表から)

- ・ 平成25年の嵐山地域の冠水の際，渡月橋というシンボルがあったことによって，地域住民が結束できた。
- ・ 木造住宅の密集地での火災が多かったため，地域住民による防災まちあるきを行い，定期的にコミュニケーションをとるきっかけをつくった。
- ・ 古くからの住民と新しい住民の間に意識の違いがあったが，住民のネットワークづくりや啓発活動を行うことによって，対応能力が高まった。

(2) ワークショップ2 「京都市にとって重要なショックとストレスの優先順位付け」

参加者が自分にとって影響が大きいと思うショック（災害，脅威），ストレス（圧迫事象，圧迫要因）のトップ3をそれぞれ選んで付箋に書き出し（ショック：青，ストレス：緑），それを基に「京都のまちにおける頻度と影響」について意見交換。

→ 京都のまちにとって最も影響が大きいと思うショックは「地震」、ストレスは「少子高齢化」としているグループが多かった。このほか、ショックとしては「テロ攻撃」、「大規模停電」、「サイバー攻撃」、「原子力事故」など、ストレスとしては「人口減少」、「インフラ老朽化」なども多くみられました。



(グループによる発表から)

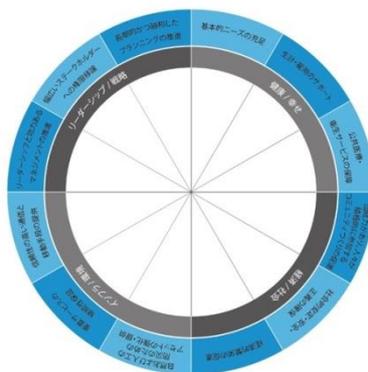
- ・ 「大規模地震」は滅多に起こらないが、小さな「地震」は頻発しているため、日常的に抱える不安としてストレスに位置付けた。「テロ攻撃」も起こった時のインパクトの大きさと日常的な不安から、同様にストレスに位置付けた。
- ・ 「大規模停電」もショックとしては大きい。
- ・ 京都市は観光都市であり、かつ中小企業も多いことから、「サイバー攻撃」によるデータ流出のリスクが高い。
- ・ ストレスとしては「少子高齢化」が慢性的に進んでおり、グループの共通認識となった。

(3) ワークショップ3 「京都市のレジリエンスの現状を診断する」

CRF (シティ・レジリエンス・フレームワーク) に記された、4分野の12目標について、京都のまちがどの程度頑張っているかを3段階でランク付け(「よく頑張っている」、「ふつう」、「もう少し頑張れる」)し、よく頑張っている目標ともう少し頑張れる目標について意見交換。

リーダーシップ/戦略
効果的なリーダーシップ、権限を委譲されたステークホルダー(関係者)、融合したプランニング

インフラ/環境
必要不可欠なサービスを提供し、市民を守り、つなぐ手段として的人工/自然インフラ



健康/幸せ
都市に住み、働く全ての人の健康と幸せ

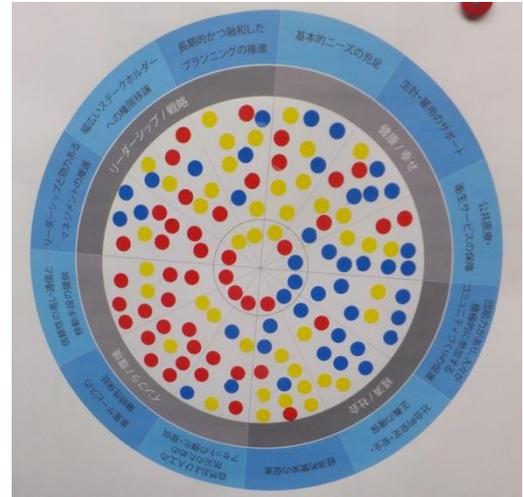
経済/社会
市民が平和に暮らし、共同で活動することを支える社会システムと経済システム

- 全10グループのランク付けによると、「よく頑張っている」(青)が過半数となった目標は次のとおり。
- ・ 「健康/幸せ」分野の「1. 基本的ニーズの充足」及び「3. 公共医療, 衛生サービスの保障」
 - ・ 「経済/社会」分野の「4. 団結力があり、人々が積極的に参加するコミュニティづくりの促進」及び「5. 社会的安定・安全・正義の確保」
- 一方、「もう少し頑張れる」(赤)が過半数となった目標は次のとおり。

- ・ 「健康／幸せ」分野の「2. 生計・雇用のサポート」
- ・ 「インフラ／環境」分野の「7. 自然及び人口の防災のためのアセットの強化・提供」, 「8. 重要サービスの継続性保証」及び「9. 信頼性の高い通信と移動手段の提供」
- ・ 「リーダーシップ／戦略」分野の「11. 幅広いステークホルダーへの権限移譲」

(グループによる発表から)

- ・ 「もう少し頑張れる」(赤) 目標として、「9. 信頼性の高い通信と移動手段の提供」が挙げられた。地下鉄東西線で浸水被害が発生したこと、烏丸線が通勤ラッシュのときに使いづらいことなどが意見として出た。
- ・ 「4. 団結力があり、人々が積極的に参加するコミュニティづくりの促進」と「10. リーダーシップと効力あるマネジメントの推進」が関連しており、前者は「よく頑張っている」(青)、後者は「もう少し頑張れる」(赤)と相反した。地域の方が頑張っているのに対し、行政側の意思決定は何事を決めるにも時間がかかることが挙げられた。
- ・ 「2. 生計・雇用のサポート」と「12. 長期的かつ融和したプランニングの推進」が関連している。参加者でも意見が割れ、最終的に2.を「もう少し頑張れる」とした。例えば、市は観光施策に力を入れているが、関連業界では非正規雇用が多い。結果として貧困が促進されており、底上げを図るために長期的なプランニングや経済繁栄の促進を頑張してほしい。



発表者のグループによるランク付け

(4) ワークショップ4 「ショックとストレスの相関関係とレジリエンスの効果を理解する」

ワークショップ2を踏まえ、グループごとに議論したいショックとストレスを1つずつ選び、更に2つの小グループに分かれて意見交換。

参加者は、選んだショック又はストレスに対するレジリエンス向上のために京都のまちに必要な取組、その取組がCRFのどの目標を改善又は悪化させるかを考えました。

→ 意見交換のテーマはグループごとに実にバラエティに富んでおり、ショックとしては「地震」の他、「洪水／水害」、「大規模停電」、「テロ攻撃」、「原子力災害」、「火災」など、ストレスとしては「地域のつながりの欠如」、「少子高齢化」、「交通渋滞」、「京都ブランド力の衰退」などが挙がっていました。



(グループによる発表から)

- ・ ストレスとして「少子高齢化」を選択。京都市に必要な取組として、「子育て環境の充実」を挙げた。少子化はまだ回復可能であり、若い世代が安心して子供を育てられる環境整備が必要。健康長寿の取組、ワークライフバランスの取組も進めてほしい。
- ・ CRFの目標との関係では、「2. 生計・雇用のサポート」や「6. 経済的繁栄の促進」などにつながるという意見が出た。取組の推進により若い世代が増えると、地震の

ときに対応しやすくなるなど、よい面がでてくるのではないかと。

- ・ ショックとして「火事」を選択。京都市に必要な取組として、①各家庭での消火設備設置に向けた啓発、②防火防災訓練の実施、③町内会や消防団による夜回りの推進、④市民への周知・啓発、⑤消防団への入団促進、⑥消火設備へのアクセスルートの確保が挙げられた。CRFの目標との関係では、「4. 団結力があり、人々が積極的に参加するコミュニティづくりの促進」を改善させるが、悪化させる目標は特にない。上記は火事のみでなく、自然災害時にも応用可能。

5 100RCによる評価

閉会に当たり、100RCからは次のような評価をいただきました。

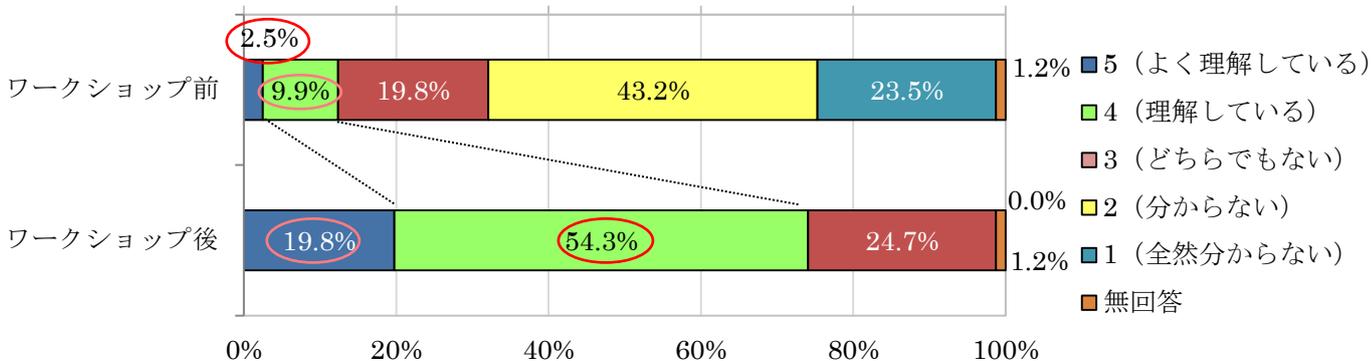
「これほど様々な参加者にお集まりいただき、非常に楽しげに議論していただいたことに感銘を受けました。話し合いの中でいろいろな改善点も浮かんできたことでしょう。しかし本日の健全な議論から生まれたアイデアは非常に健全なものだと思います。皆様の真摯な意見交換、そして努力に感謝いたします。」

6 参加者へのアンケート結果 (別紙)

ワークショップを通じて、「100のレジリエント・シティ」の取組への理解が進んだという御意見が大多数でした。

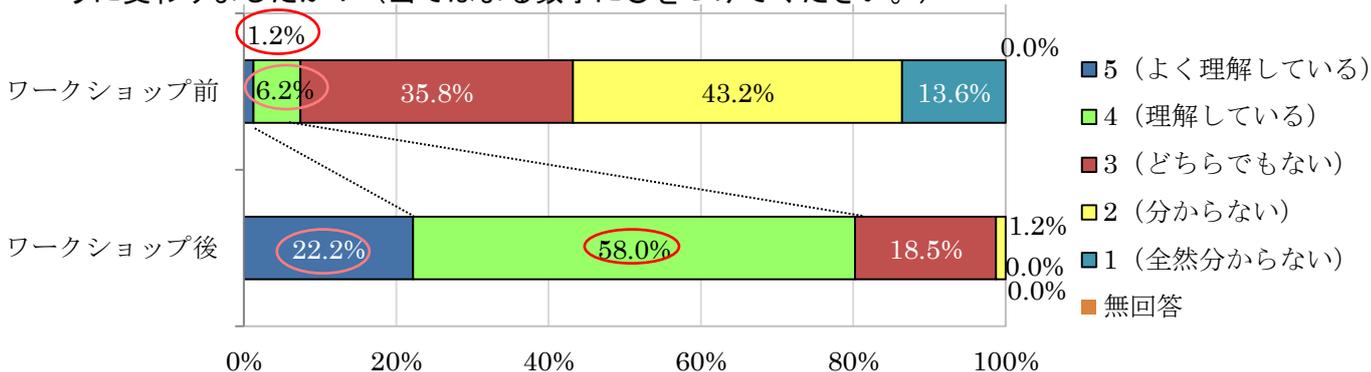
アジェンダセッティング・ワークショップ アンケート結果

Q1 「100のレジリエント・シティ」へのあなたの御理解は、ワークショップの前と後でどのように変わりましたか？（当てはまる数字に○をつけてください。）



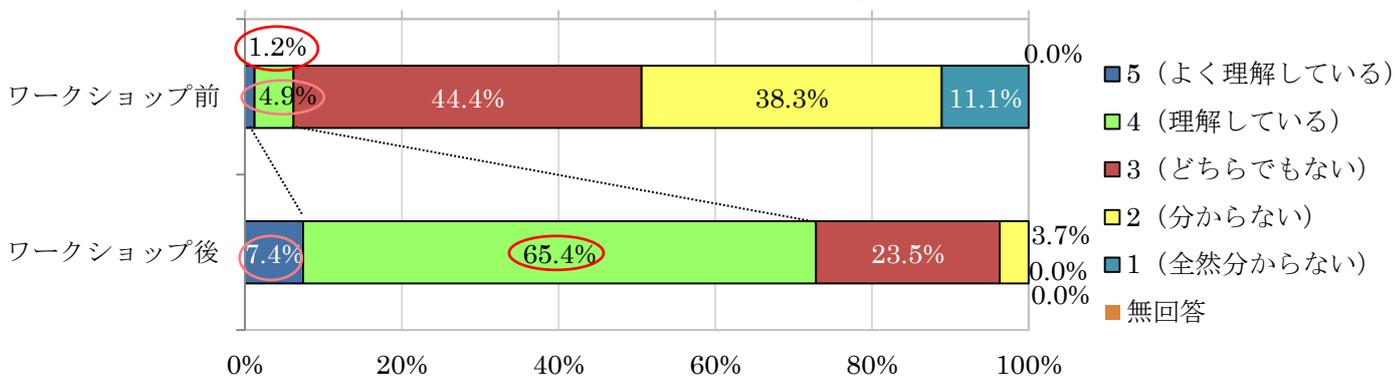
5 (よく理解している) 及び 4 (理解している) が、ワークショップ前の 12.4%から 74.1%へと大幅に増加。

Q2 「京都市のショックとストレス」へのあなたの御理解は、ワークショップの前と後でどのように変わりましたか？（当てはまる数字に○をつけてください。）



5 (よく理解している) 及び 4 (理解している) が、ワークショップ前の 7.4%から 80.2%へと大幅に増加。

Q3 「京都市のサービスが充実している分野と不十分な分野」へのあなたの御理解は、ワークショップの前と後でどのように変わりましたか？（当てはまる数字に○をつけてください。）



5 (よく理解している) 及び 4 (理解している) が、ワークショップ前の 6.1%から 72.8%へと大幅に増加。